

# 京交山岳部報

〔第1753回例会〕 飛 驒

## 御 前 山

日 時 10月7日(土)～8日(日)  
集 合 壬生交通局前PM6:00  
コース 京都-中津川-桜洞(泊)…御前山(1,646m)…桜洞-下呂温泉-京都

担当者 本局 岡田 茂久  
(京都高速☎822-3666)  
(自 宅☎392-2070)

備 考 装備 シュラフ、食器、防寒具、  
テルモス、弁当1食(8日昼用)  
地図 湯屋、萩原(1/25000)  
マイカー山行です。

10月5日申込〆切。

御前岳は、木曾御岳の遥拝所として古くから有名であり、新雪には少し早いものの、錦繡を鍛った雄大な御岳の景観は我々を魅了するでしょう。

〔第1754回例会〕

## 荒 島 岳

日 時 10月14日(土)～15日(日)  
集 合 壬生交通局前PM1:00  
コース 京都-(R161)-敦賀-(高速)-福井-大野-勝原(泊)…荒島岳往復

担当者 梅津 吉田 武  
備 考 テントで泊ります。

〔第1755回例会〕

兵庫県千種町ふるさと名勝登山大会参加

## 後 山

日 時 10月22日(日)  
集 合 壬生交通局前AM5:00  
コース 京都-山崎-千種町…後山…千種町-京都

担当者 本局 岡田 茂久  
(京都高速☎822-3666)  
(自 宅☎392-2070)

備 考 装備 防寒具、テルモス、弁当1食  
地図 西河内、千種(1/25000)  
マイカー山行です。

10月20日申込締切。

兵庫県の最高峰三室山や1等三角点の日名倉山も近く、高原スキー場と温泉のある鮎踰る清流の町です。



〔第1756回例会〕

## 雨 飾 山

日 時 10月28日(土)~30日(月)

集 合 大倉寛治郎宅PM9:00

コース (28)京都東IC-糸魚川IC-  
(R148)-鎌池林道(テント仮  
眠)

(29)…雨飾山往復-雨飾荘(泊)

(30)-(北陸自動車道)-京都

担当者 梅津 吉田 武

備 考 費用約5,000円

### — 今月の集会 —

日 時 10月11日(水)PM6:30

場 所 厚生会館 4F大教室

### — 企画運営委員会 —

日 時 10月20日(金)PM6:00

場 所 厚生会館 4F大教室





## 八 丁 平

岡 田 茂 久

先日、何年ぶりにならうか、フノ坂を越えて八丁平を訪ねてみた。周知のとおり八丁平は、近畿では有数の景観上からも学問上からも貴重な高層湿原と言われている。

この八丁平に林道を開設する工事は是非をめぐって、開発か自然保護かで世論が湧いたのは昭和50年代の初めであった。この林道は主として京都市の最北端に位置し、以前から京都の陸の孤島とも言われた久多地区の振興を目的として計画されたもので、百井から尾越を経て八丁平を横断し久多に至るものである。従来、久多から京都へは懸崖上の久多・広河原線を梅の木から国道367号線を経るか、能見越えを広河原にできるしかなかった。いずれのルートをとっても狭い悪路で、新道への期待は大きいものであったろう。

しかし、後になってこの林道が完成したとしても、京都までの時間短縮には途中の既設道路が狭く、すぐには機能を十分に発揮できる見込みが無いことがわかった。それに加えて八丁平の自然保護運動の影響と、国道等既設道路の整備も進み、現在では人々の当初の新道開設への期待はかなり薄れたように感じる。

すでに昭和40年代から八丁林道の起点となる大黒谷林道の外、八丁平周辺では林道工事があちこちで進んでいた。八丁平への林道工事は一時中断後、昭和53年から再開されたが、おりから八丁平の自然保護運動の声が昂まり、いかにして八丁平の自然を残して林道を開設すればいいかを、京都市は学識経験者に委託して5ヶ年計画で八丁平環境調査を実施した。当時、京都府山岳連盟会長であった角倉現名誉会長も自然景観の項目を担当されている。

林道工事は八丁平環境調査が終了するまで伊賀谷左又で中止され、それと同時に八丁平を市民にもっと知って貰おう親しんで貰おうと、市ではパンフレットを作成し、八丁平湿原を巡る遊歩道とベンチや道標等を設置した。そのかわり湿原内は立入禁止とし、集水域にあった同志社の山小屋等を集水域外に移し、二の谷にゲートと管理棟を設け、林道は一般車を通行止めとした。

八丁平環境調査は昭和60年に終了し、八丁平の自然が灌木1本まで詳細に調査された。自然保護と開発の調和は如何に有るべきかと、八丁平の自然に最も影響の少ない林道ルートが答申されたのだが、おりしも大見・尾越運動公園の開発問題が起り、お隣の滋賀県をも巻き込んだ大きな社会問題となって、その余波だろうか現在では林道工事は再開されないままになっている。

しかし、残念ながら現在八丁平の集水域はどうか保護されているものの、集水域外は済し崩しに開発が行われてしまった。フノ坂下の最初の林道の下部に、ループ状にもう1本の林道が開削され、法面の保護もされないままに、谷間にかき捨てられた土砂が無残にも樹木をなぎ倒している。俵坂峠では既に林道はナメラ谷側に越え寺谷林道と連結してしまった。八丁平に流入する谷水は、

オグロ坂の湧水を除き飲用不適となっているのはどういう訳だろう。

八丁平は訪れる度に湿原から受ける雰囲気異なる不思議な所である。もう20年以上になるだろう国体予選の選手として、久多からオグロ坂を越えて八丁平に入った時は、ほっと緊張を解きほぐしてくれる暖かい雰囲気の湿原だったのを記憶する。その後何回か訪れたがいつも柔らかい陽光がふりそそぐ温和な湿原だった。ところが今回は違った。台風の接近を伝える風の強い曇りがちの日であったが、フノ坂を越えてしばらく行くと、それまで先頭で私達をリードしていた我屋のぐうたら犬がしっぽを垂れて、先に行きたから私と娘の間をキープして嫌々付いてくる。人の気配は全く無く、鳥のさえずりはもとより蝉の鳴声も聞こえず、ただ、ごうごうと樹々を吹きすさぶ風の音がするばかり。蝮がときおり鎌首をもたげ、なんとも不気味な雰囲気で迎えられる。まるで自然をいじくりまわす人間の行為を恨み怒るように。

〔第1747回例会〕

## 丹後半島の山と海水浴

大倉 寛治郎

今回は、出版の調査と、レクリエーション、海と大変よくばった計画である。

8月18日午前8時半、待ち合せの西大路四条下ルで皆と合流、JRで行く5人以外は、車4台に分乗り9時出発する。

須知でトイレ休憩後国道27号を舞鶴へ、交通量も心配したほどではなく、予定どおり西舞鶴へ着く。スーパーで食料や必需品を購入し、神崎にある「リオ海の家」に着く。本日の為に、この家の主の方が前日より泊り清掃して我々を迎えて下さった。広々として使い勝手もよく、大変よい海の家を奥村さんの紹介で借りる事ができて幸運である。

荷物の整理をしている間に、JRで来る5人を津田さんが神崎駅まで迎えに行く。全員そろったところで各自自参の昼食を取る。一息入れた後、山行組と静養と海組に別れ、奥村、田中両氏と大倉の3名で丹後半島の最高峰へと出発する。宮津～岩滝町～大宮町延利から五十河へ14時45分に着く。村の手前に小野小町の墓石があるが、下山後立ちよる事にして、車道を左へ取る。エン堤を右へさらに進むと廃村の集落跡、円山に着く。ここで車を駐車して登る事にする。

大宮町自然愛好会の案内標や集落跡の事を書いた標示もある。道もよく手入れされていて歩きやすく、樹木の種類を書いた標識も多く見られるので、楽しく自然観察も出来る。

屋敷跡を見て鳥居をくぐり神社跡へ。三桂神社は昭和55年に下の村へ移され、今は、神社がここにあったという石塔があるのみで雑草が茂っている。駒倉越556mへ案内標識には高尾山頂へ2.5km(標高620m)、味土野越まで1.5km(危険の注意書がある)、高山頂上へ0.7mとある。高尾山頂へ2.5m(標高620m)、味土野越まで1.5km(危険の注意書がある)高山頂上へ0.7mとある。

最高峰、高山へは昨の右に取り付がある。斜面には急な登りの為チェーンが取り付けられている。道は整備されており、標識もあるが、迷うことなく頂上に着ける。100m位手前には、京都国体の

旗と大宮町旗があった。頂上では展望はないと聞いていたが、今回は、伐採されており、北の方に依遅ヶ尾山、権現山、太鼓山、金剛童子山、木子の村、そして、日本海が望め大変ラッキーであった。

往路下山し、途中、南谷の南ブナ林を見に行く。大変よいブナ林が残っており、いつまでもこのまま残ってほしいと願う。

五十河村にある小野小町の墓そして、小野山妙性寺の庭園に立ちより、住職の話聞く。

『平安時代、百人一首で知られた六歌仙の一人で、絶世の美女、小野小町が四位浮草の少将の熱烈な求婚に耐えかねて、都より姿をくらませ、小野一族の荘園であった、ここ五十河の里に移り住みこの地で、世を去ったと言われる。法名を妙生といい、小野山妙性寺は小野小町の開基であると伝えられる』辞世の句に

九重の花の都に住みはせて

はかなや我は 三重にかくる

——大宮町—— とある。

寺も庭園もりっぱな所で、時間があれば、ゆっくり出来る所である。住職さんにお礼を言い「海の家」へと戻る。

夜は、大変ゴウかな食事である。若者はバーベキューで、我々は、津田婦人や三橋婦人の名調理人のおかげで、タイや、かつおの造りで、スタミナ補給をした。

19日は、朝9時20分過ぎに出発し、石川村の二等三角点へ。宮津から関ヶ淵～荒田より390mの町界の所へ車をおき取り付きの見当をつける。250m位下った所に、植林用の道があり少々茂ってはいるが登れそうなので、田中氏と先頭に登って行く。道もわかりやすく470mのコブに着く、町界のクイがあり樹林の中を100m位進むと左に伐採跡に出る。樹林と植林の境界を行くと、左よりくる尾根と合う、ここを右へ踏跡があり雑草で歩きにくい150位登っていくと急に開けた所に出る。そこが石川村二等三角で、展望は南から東の方向へ望める。赤石岳、大江山、鍋塚、杉山、赤岩山、由良ヶ岳、舞鶴湾らが展望できた。

往路をピーク470mまで下山、植林の境界にそって鞍部まで下る。樹林の中の町界にそって下りると峠に出る、下りには少し悪いが駐車してあるすぐ手前に着く。昼食には時間も早いので、赤岩山の途中で取る事にし次へ出発する。宮津より、山中の村にある和泉式部の墓へ立ちより、又、地藏さんが7体、河の中で行水（水浴び清浄）しておられた。

新宮から奥山へ、車道終点にある人家で赤岩山の登路を聞くと、登山道はあるが関電の人ぐらいしか登らないとの事。検討の結果下見谷から登る事にして、鎌倉～下漆原～下見谷へ、ここで村の人に出合ったので再度登山ルートを知ると、この道は荒れていて、西方寺平の林からが一番早く道も良いとの事で、西方寺平から登ることにする。西方寺北を右折し車で林道を4kmほど行くと西方寺林道終点、標高528m位まで登る。終点は広く展望もよく、頂上への時間もあまりかからないので、ここでおそい昼食を取る。

ルートは林道より植林と樹林の間にあり、登り口には大きな石が三つある。踏跡もしっかりして

いる約8分位登ると大きな杉の木がある。枝が4つに分れた大木である。さらに進むと、町界の尾根標高630mの分岐の所に出る。(左へ行くと杉山、赤岩山へは右へ)地元の人が1年に1回道を刈るので楽に歩けるが、篠竹の切り口が斜めで靴に穴があくのと、足元を取られない様に注意が必要。町界尾根を標高593mまで下り、そこから約70m位登ると、赤岩山独標669mに着く。頂上周辺にはくぐり岩、立岩、のぞき岩などがある。「知る人ぞ知る名所である。」と地元の人の話である。展望は南西から東へと大変よく、又、岩肌も赤く、赤岩山というのは、ここからきた名前なのだと、ナットクノ一息いれ記念写真をとり下山する。

駐車地点へ戻り、地図に鳥居があったので確認の為300m位行くと木の鳥居があり、赤岩権現と書いてあった。この道もルートではあるが頂上付近は荒れているとの事。

岡田由里から由良川に出る国道175号から「海の家」に着くと三橋氏がJRで来られていた。今夜も、三橋氏を囲みグルメで楽しんだ。

20日は休養で、のんびりとした。昨夜までは、夜の騒音で寝られなかった者が多かったので、ゆっくりとした。昼食後、みんなで手分けして後かたづけをし4時頃、JRと車に別れて、帰途についた。

若者は一日中海の中、奥さん方はこれも一日中食事の世話で、大変、お世話様でした。

参加者 奥村 弘信、津田 実、F1、三橋 勉、F6、田中 忠久、大倉寛治郎、F7、  
岩谷 幸栄、F2

## 平成元年第二次東北の山旅

坂井久光

7/27東京の新ハイ社から一等三角点研究会員3名とその他2名の合筆で「一等三角点名山100」の出版兼多摩氏喜寿祝賀会が東京で開かれるので私が代表して出席のついでに、今年は北海道の山旅をやめて再び東北の残部一等三角点の総仕上げを目標だ。朝から鈍行で出発、夕刻会場に着き、閉会后上野駅から夜行で水沢へ行き、朝1番の石淵ダム行に乗り終点の尿前で下車。小雨が降り雨衣で林道を歩く。

蜂谷部落で一休して林道終点から急坂を登って中沼へ。一服して泥沼の中の本道を要心し乍ら登ってアヤマや沢ギホシ・ダケブキの咲く湿地を通過して銀明水の避難小屋へ。東京都庁の二人と同宿して薪を燃やして一夜を明かした。

翌29日雨で風が強いが6時頃出発。泉水沼から焼石岳は1548mの一等三角点の山だが、高山植物の豊庫で有名だが雨と風で金明水小屋へ逃込んで一休後経塚山へ向った。

途中突風物凄く一人が倒れ帽子やフライが飛ぶ仕末。経塚山1372mに登る頃雨もやみ風も弱まった。笹の茂る泥の溝状道を一路夏油温泉に向って下山。夏油川には新しい鉄橋がかゝっていたがその手前崖崩がありザイルがかゝっていた。私が先登で渡り都庁の二人を注意して渡した。前回泊った最奥の宿で一泊。

露天風呂で早速汗を流して夕食後鬼剣舞を觀賞して帰り就寝。

翌30日バスで北上へ出てJRで野辺地で大湊線に乗換へ吹越で下車。明神牧場を横切って車道の登山口に出て吹越鳥帽子508m一等△を往復。山頂は草原で山祠あり展望絶佳で北に遠く釜臥山、東に太平洋の雲海を見る。

下山してむつ市の車をヒッチして朱立温泉で一泊。下北は熊やカモシカが多く、昨年熊をはねたが逃げたとか。又、温泉も昨今多く出たとか聞いた。

翌31日タクシーで恐山と釜臥山の分岐迄乗り、歩いたりヒッチして釜臥山直下の展望台へ。

山頂は航空自衛隊基地で登路は石段だった。

山頂に小祠が二・三あり展望絶佳。眼下に陸奥湾、対岸に津軽の山々、北に焼岳・大作山が遠望出来る。又、恐山や宇曾利湖も見えた。

むつ市へヒッチして下り大畑行バスに乗り大畑町で下車。奥葉研温泉行バスに乗り、民宿が高いので福祉センターに泊り自炊で一泊。

翌8/1所長の車で佐藤平迄送って頂き牧場の中の車道を登る。左折して終点と思いきあたり北へ登ったが営林署の伐開が判らず、終に笹藪の山頂直下に至る。木に登り平坦な山頂を探すはやがて刈分を見付けて辿ると焼岳781mで釜臥山(879m)がガスの中に浮ぶ。

大作山も北に薄すら見えた。良い刈分道を下山して往路林道を歩いて易国間との分岐で車を拾い奥葉研温泉で下車。カップの湯(露天)で一浴。昔、貞観4年(1,100年前)円仁慈覚大師が恐山開山後当地に至り夜になって崖に落ち、怪我して失神したところ、頭に蔭の葉をかぶった河童が来てこの温泉に連れて行き手当たたら全快したので以後河童の湯と言うの碑があった。センターに戻り厚く礼を述べ大畑に出てバスで佐井村へ。日本本州最北端大間崎を通って夕刻佐井村へ。運よく福浦民宿の車に遭い福浦のなみえ荘で一泊。

翌8/2民宿の車で大滝沢林道のゲート迄送って頂き林道をつめ、ブル道を奥に辿って終点近くで山道を見付けて登った。山頂近くで笹藪となり山頂一帯は少し背の低い笹だったがいくら探しても三角点やその兆向もない。大作山776mは小林(深田クラブ)も登ったが言いづらかった。下山は赤石沢左俣を下って福浦へ戻り船で青森へ。途中名勝仏ヶ浦の景勝を船中より観光した。青森は今年は2日からネブタでどこも泊所は満員。六月知合った木立氏に電話したら是非来てくれとのこと。夕食後ネブタを見て彼の宅で一晩世話になり、翌3日木立氏の車で滝沢部落の端迄送って頂き約2軒30分で月光の滝東岳登山口の御嶽教会の堂舎に。尾根の小道を辿って東岳684mへ。

山頂は笹藪で三角点は見当らず最高点の木に登ってそれらしい処を探すが約30分後すぐ横に櫓の丸太らしいものを見付け下をすかしてみると白い僧柱が見付き笹や草に覆れた2cm程の高さの一等点を発見。なたで周囲を伐って写真にとり早速下山。清水沢を経て坦道へ。滝に行をしてきた老夫婦の車で青森のバス停へ。バスで駅に行き1時の津軽線に乗り中沢で下車。タクシーを駅前の民家と呼んで頂き林道の奥迄送ってもらい大倉山678mへ。林道は更に奥に2km程延びており尾根筋に出ると登山口の標識がありあと3.6kmとあり、前山を越え途中山小屋が建っていた。山頂に小祠あり、ガスで展望悪かった。往路下山。駅からJRで蟹田へ。此所もネブタの影響で何処も満員。仕方なく人のすゝめで海岸の管理舎の軒下でシュラフにもぐったが蚊の来襲に困った。

翌8/4蟹田より市バス(青森)で根岸の平館で下車。不老不死温泉で予約して丸屋形岳718mへ。登山口から尾根筋道を登ってヒバの原生林(下北も多かった)を通して林道を飛出したが横切って鴨川岳の山麓の横の刈分に出て登路を見付けて良い道を鴨川岳へ登り、一旦カモシカ乗越へ急降下し、藪道を漕いで登って北に袴腰山、西に奥陸湾や下北半島の山々西に四ツ滝山や南に津軽の山々を展望出来る。

往路を注意して下山。乗越附近は道が乱れていてルート探索が必要。温泉に刈分を辿って下山するも林道で切れ、ブル道を下るも谷で不明、小谷を下って登山口へ。岩魚が沢山いた。温泉で汗を流し下着も洗濯してサッパリして一泊。宿料は登山者には値引してくれた。良質な無色硫酸泉で皮に滑らかで良い湯。

翌8/5宿の車で蟹田迄送ってくれたが、便悪く大平迄歩いて途中ヒッチ、大平の先でトレーラー車をヒッチ今泉へ。バスで脇元へ。タクシーを店呼んで頂き磯松川林道を奥へ。好天だったが、地図の尾根道を辿り三等△518mに着いたが、その先は道は藪となり処々テープがはってある。山菜取の人が歩いたのか。

夕刻途中のピーク辺から霧雨となり視界不良となり藪は益々ひどい。ピークを越えて少し下って又、尾根筋を登ってブナの大木の茂る最高点附近を探すが三角点は仲々見つからず、下山することにする。途中右側に良い踏跡を見付けて辿り北へ向って下山。ブル道を下ると小谷に入り更に下ると林道に出た。左に向へば小泊に出る筈で歩いたが仲々長く日がくれてヘッドランプをつけて途中廃屋を通り小泊の火を見て21時頃下山。脇元へヒッチして店に預けた品を受取り遅い夕食を作って頂き食べてタクシーでナミ湖の民宿で一泊。四ツ滝山は700m。

翌日台風の為登山をあきらめて深浦に行き駅近くの旅館に2泊。5日は黄金崎不老温泉に入浴に行ったりお祭を見たりして夕刻より理髪店をやる主人と将棋を遅く迄やった。

6日は朝から雨で白神山の著者岩崎村の西口氏に電話して白神温泉に行き一浴して帰り、翌日は非来てくれとのことで7日は追良瀬にJRで行きオサナメ沢出合迄ヒッチして林道を川沿いに奥の東面迄辿り執拗なアブの大群に困されて終点から山道を登り山頂近く迄行けたが小谷出合附近で道が谷筋が判らず、左側の尾根に取付く。ヒバや水栖の急斜で岩が出て来て攀ち登ると山頂らしい平坦地に着いたが霧雨で三角点が藪中で判らず木に登って散々探したが見付らず、北側は崖で一帯に落葉松の植林があった。帰路小谷の藪を下ったら枝谷に出てこの程10m程の滝を巻いて下り往路の山道に出た。これが国地院のルートかも知れないと思った。JRで岩崎村に行き西口宅で一夜お世話になり友人の釣友が来て山や溪流釣話に花を咲かせ、この辺の谷(赤石、追良瀬川)は川口附近から山女魚や岩魚がいるし、雨鱒上ってくるが最近関東辺からも釣人が来て釣れなくなったとか。8日朝彼の釣った雨鱒の姿焼を御馳走になった。早朝出勤前車で十二湖を案内して名水を飲んで帰りJRでニツ井町に行き、畠山氏の車で長場内林道終点迄送って頂き、支尾根の藪道を登って稜線の切開きに出て三角点往復ガスで展望なし。帰路尾根筋でガサガサするので谷を見ると10m程下に熊が一匹私を見て逃げて行った。時間を見て稜線をコルに下ると焼山の分岐にプラスチックの長場内山の板があった。



ニツ井町に彼の迎いの車で戻り車中今迄の山旅の話や秋田の岳界の話をして駅で別れ、JRで角館に行き駅前旅館で一泊。長場内岳(946m)

8/10バスで北野に行きタクシーを呼んで真木溪谷の登山口迄行き、薬師岳～小杉山經由私賀岳(1,440m)に登った。道も良く導標もあったが、林道に早朝の猛雷雨の為の大落石があり運転手と往時岩石を谷に落すのに苦労した。ガスの為遠望はきかなかったが草原帯のアルプ斯的景観であった。その後車で角館に戻りその晩はJRで一の関に行き一泊。

翌11日JRで郡山乗換会津若松乗換高原線で田島へ。バスで木賊温泉に行き一泊。

翌12日ヒッチで桧枝岐に行き良い道登って会津駒ヶ岳2,132mに登頂。登山者多かった。ガスの為展望は不良。往路下山して七入の実川荘で一泊。盆で桧枝岐の民宿は満員だった。

翌13日主人の車で御池小屋迄送って頂き、銀山湖行バスに乗り、遊覧船に乗換へ銀山ダムへ。2時間待って浦佐行バスに乗り上越線の湯沢温泉で一泊。土樽の山荘は満員だった。

8/14初発で土樽へ行き、茂倉岳コースを登る。導標完備なるも始めは急登に次ぐ急登で、矢場の頭迄はひどく疲れた。水栖・ブナ・五葉松やヒバの樹林帯を越えると草原帯となり登りも緩やかになる。登り口附近で山ウズラ(ラン科)が咲いていた。草原では白山フウロ・シモツケサワギボシ等が咲乱れていた。午後は雨の予報通り茂倉小屋を経て茂倉岳(1,978m)へ。三角点(3等)は路上に50cm以上露出していた。

一旦下って登ると一の倉岳で先に大槻・吉田君等が登っている。雨が降り出し傘を出して急坂を下って一旦コルに下り、トウの耳を経て谷川富士(1,963m)に再度登って避難小屋前で昼食休憩後天神平へ下りケーブルで土合へ。バスで水上に行きJRで高崎經由東京から夜行で大垣乗換久しぶりで我家に帰宅した。

今回の山旅は梅雨明後で比較的天候に恵れたが台風の為で休んだことや、友人の助力のお蔭もあり無事完了したことを喜ぶ次第です。

[コース・タイム]

7/27 8:01京都16:32～新橋21:38上野

7/28 4:51～6:20水沢7:04～12石淵ダム(尿前)10:06～10中沼11:30銀明水小屋(泊)

7/29 6:00出発7:05～10姥石平7:30～35焼石岳7:52～57姥石平10:13～11:05金明水小屋13:00～40経塚山16:25～35鉄橋17:40夏油温泉(泊)

7/30 9:00出発10:00～03北上10:59～11:34盛岡13:20～47野辺地14:11吹越15:30～35登山口16:35～45吹越鳥帽子17:33登山口18:05ヒッチ19:11矢立温泉(泊)

7/31 8:30出発8:48釜臥・恐山分岐9:52展望台10:05～15釜臥山11:20～25下北駅11:38～50田名部バスセンター12:16～14:35大畑町14:52薬研温泉15:40奥薬研老人福祉センター(泊)

- 8 / 1 8 : 3 2 出発 8 : 5 8 佐藤平分岐 1 0 : 4 0 稜線 1 0 : 5 6 ~ 1 1 : 1 0 焼岳 1 2 : 1 1 ~ 2 0 佐藤平分岐 1 3 : 2 0 ~ 2 2 易国関分岐 1 3 : 2 9 ~ 1 4 : 0 0 河童の湯 1 4 : 1 0 ~ 1 5 : 0 0 老人福祉センター 1 5 : 2 5 ~ 5 0 大畑駅 1 7 : 2 0 ~ 2 2 佐井 1 8 : 0 0 福浦なみえ荘 (泊)
- 8 / 2 6 : 5 3 出発 7 : 0 2 大滝沢林道ゲート 7 : 2 8 ブル道 山道の分岐 8 : 2 4 ~ 4 0 大作山 1 0 : 4 0 ~ 4 4 赤石沢左俣砂防ダム 1 1 : 0 0 大滝沢林道 1 1 : 1 7 ~ 1 2 : 5 5 福浦 1 4 : 5 0 青森着、友人宅 (泊)
- 8 / 3 5 : 5 0 出発 6 : 2 1 滝沢 6 : 5 5 ~ 7 : 0 0 月光の滝 8 : 4 0 ~ 9 : 3 0 東山 1 1 : 0 0 林道 1 1 : 0 6 ~ 2 0 月光の滝 1 2 : 1 2 ~ 1 3 : 0 1 青森駅 1 3 : 4 3 ~ 5 5 中沢 1 4 : 1 3 林道車止 1 4 : 4 0 ~ 4 5 登山口標示 1 6 : 2 3 ~ 3 0 大倉岳 1 7 : 3 6 登山口 1 8 : 5 8 ~ 2 0 : 1 4 中沢 2 0 : 3 5 蟹田 (泊)
- 8 / 4 7 : 0 7 出発 7 : 3 2 平館 (根岸) 7 : 5 2 不老不死温泉 8 : 0 0 登山口 9 : 1 0 林道横断 9 : 4 8 標識 1 0 : 2 5 ~ 3 0 鴨川岳 1 1 : 4 6 ~ 1 2 : 0 0 丸屋形岳 1 2 : 3 2 ~ 4 0 カモシカ乗越 1 3 : 0 4 ~ 1 0 鴨川岳 1 3 : 5 6 ~ 1 4 : 0 0 丸山林道 1 4 : 3 0 ~ 3 5 谷川 1 5 : 2 3 登山口 1 5 : 3 0 不老不死温泉 (泊)
- 8 / 5 8 : 5 6 出発 9 : 3 0 ~ 5 0 蟹田 1 0 : 1 5 ~ 2 5 大平 1 0 : 5 1 ~ 5 6 毘布掛 1 1 : 2 7 ~ 5 5 脇元 1 2 : 1 8 林道分岐 1 4 : 2 0 ~ 2 5 三等△ 1 7 : 1 3 ~ 1 8 四ツ滝山 1 8 : 3 6 ~ 4 0 広道 1 9 : 3 8 林道 2 1 : 0 0 ~ 0 5 小泊 2 1 : 2 0 ~ 4 5 脇元 2 2 : 0 0 ナラ湖 (泊)
- 8 / 6 9 : 4 8 出発 1 1 : 0 3 ~ 1 2 : 2 8 五所河原 1 5 : 2 5 深浦 (泊)
- 8 / 8 7 : 5 4 出発 8 : 0 3 追良瀬 8 : 2 8 オサナメ林道分岐 9 : 4 0 林道終点 1 1 : 0 0 ~ 3 0 栴形山 1 2 : 2 0 ~ 2 5 小谷 1 4 : 0 0 オサナメ林道分岐 1 4 : 1 9 ~ 1 5 : 3 9 深浦 1 6 : 0 2 岩崎西口宅 (泊)
- 8 / 9 8 : 1 7 出発 9 : 4 1 ~ 1 0 : 0 7 東能代 1 0 : 2 3 ~ 5 0 ニツ井 1 1 : 1 9 林道終点 1 2 : 1 8 稜線切開 1 2 : 3 0 ~ 4 0 長場内山 1 4 : 1 5 林道終点 1 4 : 5 0 車 1 5 : 5 0 ~ 5 8 ニツ井 1 7 : 5 8 角館 (泊)
- 8 / 1 0 6 : 3 0 出発 7 : 0 0 ~ 1 5 北野 7 : 5 0 登山口 (小路又) 1 0 : 0 0 ~ 1 0 薬師岳 1 0 : 4 5 小林岳分岐 1 1 : 3 7 ~ 5 0 私賀岳 1 2 : 2 8 ~ 3 3 小形岳 1 3 : 0 0 薬師岳 1 4 : 1 2 甘露水 (林道) 1 4 : 2 0 登山口 1 4 : 4 7 車 1 5 : 3 0 ~ 5 4 角館 1 9 : 4 1 一の関 (泊)
- 8 / 1 1 9 : 0 3 出発 1 0 : 4 5 ~ 4 9 仙台 1 3 : 2 7 ~ 3 4 郡山 1 4 : 3 6 ~ 4 2 会津若松 1 5 : 5 5 ~ 1 6 : 0 0 田島 1 6 : 5 5 木賊温泉 (泊)
- 8 / 1 2 8 : 0 8 ~ 2 1 木賊口 8 : 3 0 ヒツチ 8 : 5 4 ~ 9 : 0 4 桧枝岐 1 0 : 4 4 ~ 1 1 : 0 5 水呑場 1 2 : 1 5 ~ 1 3 : 0 0 駒ヶ岳小屋 1 3 : 1 5 ~ 2 0 会津駒ヶ岳 1 4 : 2 2 ~ 3 0 水呑場 1 5 : 5 5 登山口 1 6 : 3 0 実川荘 (泊)

- 8/13 7:28 出発 7:55~8:05 御池小屋 8:45~55 銀山湖船付場 9:32~11:55 銀山湖ダム 13:25~14:38 浦佐 16:41 越後湯沢温泉(泊)
- 8/14 6:26 出発 6:43 土樽 7:10 茂倉岳登山口 9:25~30 矢場の頭 10:44~50 茂倉小屋 11:06~12 茂倉岳3等△ 11:30~45 一の倉岳 13:00 谷川富士3等△ 13:07~50 谷川小屋 15:30~25 天神平 15:45~55 土合 16:30~53 水上 17:54~18:15 高崎 20:14~21:48 池袋 22:11~23:25 東京
- 8/15 6:57~7:09 大垣 9:05 京都駅

〔校正〕 7月号、10P下から4行 私賀仙人→和賀仙人  
 P11、上から4行 私賀→和賀、中段 早地峰山→早池峰山、高山→富山  
 ツツジ→米ツツジ、北山山地→北上山地、和佐嶺比山→和佐羅比山<sup>ワサラビ</sup>  
 青森トド松の茂子→茂る、アラクリ板→アクリル板  
 P12、友魂草→反魂草、マカドン→マカド

## 例 会 報 告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
1747	丹後の山	8月18日 ~20日		大倉寛治郎	奥村、津田 三橋、田中 (他17名)	別稿詳報
(中止) 1748	比良へく谷	8月27日		岡田 茂久		豪雨の為中止しました。

# 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参加者	備 考
東北の山旅	7月27日 ～8月15日		坂井 久光	別稿詳報
五竜岳から 針ノ木へ	7月31日 ～8月3日		竹村 芳広 山本 俊夫	31日 五竜山荘(泊) 1日 冷池山荘(泊) 2日 針ノ木小屋(泊)

# 雑 報

## ✿ 9月の集会

11日(月)場所 厚生会館4F大教室

出席者(本局)岡田、大槻雅、古市、和田、大木、井上、井戸、三橋

(梅津)吉田 (高速)大倉

(OB)今井、奥村、坂井

以上 13名

内 容 例会報告、その他

## ✿ 他山岳会の会報(受贈分)

8月号 京都山の会、跋涉譜

9月号 木雞、京都山岳、近畿山行、比良山岳、趣味の登山

10月号 近畿山行、北山



御婚礼  
御引越  地方宅配  
運搬専用

## ぎおん菊水運送株式会社

山科配車センター・京都市山科区西野山階町12-12

TEL (075) 581-3101  
祝 い さ い わ い

本社・京都市東山区大和大路通四条下ル  
TEL (075) 541-2345(代)

## お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引きたてにあずかり厚く御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区<sup>不明門</sup>通り六条下る西側  
(烏丸通りより1筋東の通り)  
TEL 075-351-6598(代)

㈱ 小林地図専門店

SINCE 1980  
**THE LOG CABIN CO.**  
H.HASEGAWA'S SHOP  
FOR ALPINISTS  
KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

## サンコークラフト

西 島 輝 雄

左・川端丸太町下る下堤町88  
TEL (075) 771-3442

帆 布・濾 布  
テント・シート  
雨 合 羽

## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カヌーをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



## ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US原出品  
ポースカフト用品

**MOUNTAIN**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548  
●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ

- 技術とサービスの創る!印刷

株式会社

## 北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)  
FAX(075)791-7290

平成元年10月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部